令和3年市町村広報コンクール審査票(市部)

〇広報紙の名称「広報高崎 11月15日号」

評価された点

【全体】

- ・特集やトピックスなど多彩な話題でページが構成されている。また記事を詰め込み過ぎず、空き すぎず、見やすく収めている
- ・表紙を含めて写真の扱い方が優れている。大小のメリハリもよく効いていて、ページをめくった読者が飽きない仕掛けが効いている

【表紙】

・特集とイメージが連動するような親子連れの写真をあしらい、また目次を配置することで、この 号の内容がすっきり整理されている

【特集】

- ・親子を案内役として登場させることで、親しみが持てるように工夫している。また写真を使い、サービス内容を分かりやすく紹介しようとしている
- ・利用者の声をふんだんに取材している点も秀逸。ちりばめた写真もバラエティに富み、分かりやすく伝える工夫が光る
- ・写真を多用し、大づくりなレイアウトで必要な情報が見やすく並べられていた
- ・紹介先の羅列になりがちなテーマだが、うまく「見せる」紙面に仕上げた
- ・初めて利用する市民向けに施設の駐車場を案内しているのも丁寧だった。説明文も簡潔
- ・病児・病後児保育など、急に必要となる支援について、連絡先を分かりやすく記載するなど、配慮が見られた

【その他】

・「美しい高崎」では市の玄関口、高崎駅の夕景をごく短いキャプションとともに紹介している。 連載1回目に、市民にとって、ごくありふれた日常でも立ち止まってみると「美しい光景」と感じ られることを表現した点が秀逸だ。また写真の使い方がうまく、工夫の跡がみられる

令和3年市町村広報コンクール審査票(市部)

〇広報紙の名称「広報ぬまた 12月1日号」

評価された点

【全体】

- ・全体を通じて表情豊かな写真が多く、子どもたちを含めて多くの市民を取り上げることで親近感が深まり、好感を持てる。それぞれの記事も行政側からの垂れ流しではなく、市民の声を届けようとしている工夫が光り、優れた読み物に仕上がっている
- ・色使いや字体、横組みや縦組みなどワンパターンにならないように工夫を凝らした編集は、読者を飽きさせずに、読んでもらいたいという意思が感じられる。「沼田城武将印」はカラーの効果を 最大限活用している
- ・除雪作業や水道管の防寒対策など季節に合わせた案内の他、オリジナル風呂敷、沼田城武将印など楽しげなものもあり、情報が満載

【特集】

- ・新型コロナで学校が休校になる中、子どもたちの居場所を守った学童クラブの奮闘ぶりが伝わる、力の入った特集になっている。かなり書き込んでいるが、内容が充実しているので苦もなく読める
- ・3カ月間にわたり、朝から地域の子どもたちを受け入れ続けた学童クラブの実情と取り組みや思い、さまざまな工夫を支援員を中心に数多く語ってもらうことで、コロナ禍の中で地域から子どもたちの笑い声を絶やさない強い思いが伝わる。読み手が勇気を得る秀逸な企画。一人ひとりの思いが堅苦しくない文章で伝えられていることで、学童と関係の薄い市民にとっても身近に感じられる表現になっている点も光る
- ・さまざまな人を丁寧に取り上げ内容が充実している。感染防止対策を取りながら子どもたちを見守っていく苦労や地域との結びつきの強さが伝わった

【その他】

・電子通貨の導入や市内のトピックス、お知らせなどを過不足なく32ページに詰め込んだ編集は 大変バランスが良い

令和3年市町村広報コンクール審査票(市部)

〇広報紙の名称「広報いせさき 12月1日号」

評価された点

【表紙】

・特集の見出し「これ何か分かりますか?」をキャプションにして読者を引き付けるうまいつくり

【特集】

- ・表紙と連動し、市内の工場が東京五輪・パラリンピックのトーチ筐体(きょうたい)の製造に関わっている意外な事実を紹介。表紙の仕掛けを含め、市民の興味関心を高める内容となっている
- ・地元企業が東京五輪・パラリンピックのトーチ筐体を手がけていることを、取材した担当者本人も驚きと喜びをもって取材し、執筆していることが文章から伝わってくる。製作に携わるさまざまな人たちの取り組みや思いも生き生きと紹介しており、多くの市民が共感とともに読み進めたのではないか
- ・聖火リレーで使われるトーチの筐体作りを手掛ける市内メーカーを取り上げた。ミリ単位の精密作業で1万本以上を仕上げた過程を活写。年明けの開催に期待を込め、読ませた好企画だった
- ・東京五輪にこのような形で地元の企業が関わっていると知ると、さらに興味がわき、応援に力が 入ると思う

【その他】

・「TOPICS」、「いせさき旬コレ」では 食べてみたいと思わせる農産物の説明と写真だった